

告辞

自然界に春の息吹が感じられる今日のよき日に、崇城大学大学院修了証書授与式ならびに崇城大学卒業証書授与式を挙行できますことはこの上ない慶びであります。論文の審査、および厳しい最終試験に合格し、晴れて「博士」ならびに「修士」の学位を得られた大学院修了生の皆さん。皆さんの栄誉に対し、心からお祝い申し上げます。皆さんが、「博士」・「修士」の学位を修得されたことは、科学分野、芸術分野に、一生懸命取り組んでこられた研鑽のたまものであり、本学の誇りでもあります。

また、本日、蛍雪の功なり、栄えある「学士」の卒業証書を得られた学部卒業生の皆さん。皆さんは学業のみならず、各種プロジェクトやクラブ活動、留学やボランティアなど様々なアクティビティにも積極的に挑戦し、驚くほどの人間力を身に付けてくれました。その姿は、四年或いは六年前の入学時に比べ、本当に逞しくなっていると誇らしく思っています。ただ、この2年間は、コロナウイルス感染症のパンデミックにより、授業の多くが遠隔授業となりました。修学や研究、また、友人との交流等において、心残りの方がいるかもしれませんが、このような体験によって、ニューノーマル時代のライフスタイルを身に付けることができたのではないかと思いますので、これを糧に社会で活躍されることを願っています。

また、今回の卒業生の中には、17名の外国人留学生がいます。言葉の不自由さや生活習慣の違いなど、苦労も多かったことと思いますが、それを克服し、今日の卒業を迎えることができました。よく頑張りましたね。心からお祝いし、共に喜びたいと思います。沢山の友人をつくり、多くの行事等に参加するなど、本学が進める国際化に大きく貢献してくれました。どうか、今後とも、母国と日本との友好の架け橋となって、活躍されることを期待したいと思います。

そして、保護者の皆様。子供さんのご卒業、誠におめでとうございます。

親元を離れ、身の回り一切を自分で律しながら学生生活を送った子供さんが多く、ご心労もあったことと思いますが、逞しく自立した姿をご覧になって、さぞかし安堵されていることと思います。重ねて、お祝い申し上げます。

ただ、今回、コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染リスクを回避する形で、卒業式を挙行することになりましたので、保護者の皆様のご出席についてはご遠慮いただくことになりました。誠に申し訳なく思っております。どうかご理解を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平和の祭典、冬季の北京オリンピックが閉幕し、世界の人々が友好と平和の素晴らしさを享受している中、突然、ロシア軍がウクライナに侵攻し、戦争が始まりました。連日報道される中で、ミサイル攻撃等によりウクライナの人々の生活が破壊され、一般市民の犠牲者や家族離散など、目を覆いたくなるような悲惨な状況が報告されています。悲しみに胸が締め付けられる思いになりました。

世界各国は、第二次大戦が終結した後、二度と戦争を起こしてはならないと、国連を発足させ、さらに異なる文明、文化、国民の間の対話を促進し、価値観の共有を図ることを目的にユネスコを設立させました。そのユネスコ憲章には「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」と記されています。世界中が平和の維持のため必死に努力しているのにもかかわらず、一部の人の心の中に「平和の砦」を築くことができなかったことは残念でなりません。戦争は如何なる理由があろうとも決して起こしてはならないことです。

スリランカのお坊さんが、「仏教は宗教ではなく、お釈迦様の教えであり、心の科学だ」と前置きし、「人を不幸にするのは、怒り、欲望、執着などの自我そのものである。」と言っておられます。「怒るという行為は自分が正しいという思い込みであり、理性の対極にある極限の無知である」と言い、「怒りは自らを愚者にし、自らを苦しめるだけだ」と諭されています。自我の強い意識が「平和の砦」を壊し、戦争のトリガーになったのかもしれません。

どうか皆さんはこれからの人生において、人の支えがあって自分が生かされていることを忘れることなく、常に自我を抑えるよう努めると共に人への感謝と思いやりを心掛けていただきたいと思います。そして、心の中に「平和の砦」をしっかりと築き、笑顔の絶えない幸せな人生を歩まれますよう願っています。

ところで、皆さんがこれから船出しようとする社会は、国が「ソサイエティー5.0」社会と呼んでいるように、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)が高度に融合した、いわゆる、近未来的社会を迎えようとしています。即ち、大容量通信5G と超高速処理可能な量子コンピュータが実用化されたことにより、IOT (Internet of Things)や人工知能 AI が普及し、便利で快適な生活が実現できると言われています。例えば、企業ではロボット化や自動化が進み、安全性、生産性の向上と共に社員の創造性を重視した職場になると言われています。また、農業は天候に左右されない工場生産になるでしょうし、モビリティも自動操縦のドローンが主流になるかもしれません。そして、通貨はキャッシュレスを経てデジタル・マネーとなり、ものの所有はシェアへと変化し、社会の価値観そのものが大きく変わるのではないかと言われています。まさに、新時代の到来であり、社会は今後急

速に大変革を遂げていくことになると思います。

しかしながら、その一方で、このような華やかな新時代とは異なった負の未来も予測されています。それは地球温暖化等による環境問題と開発等による生態系の破壊であります。地球温暖化はCO₂の蓄積によるものであり、球磨地方を襲った集中豪雨のように、自然災害を招く原因ともなっています。さらに、生物の種の絶滅は、恐竜時代の絶滅スピードと同じ、驚異的な速度で進行しているといわれています。

このように、様々な難題が横たわっていますが、時代は、それでも未来への道程を確実に前進しながら、しかも短期間で社会変革を遂げて行くことになると思います。

そこで、卒業生の皆さんにお願いしたいことは、人類にとってのより良い未来を築くために、皆さん自身が様々な課題解決に主体的に参画してほしいということです。過去、明治維新や戦後がそうであったように、社会の価値観が急速に変化するとき、そのエンジンは常に若者が担ってきました。若者は過去あるいは現状の価値観に染まっていないので、新しい課題に挑戦する変革者として活躍できるのだと思います。若き卒業生の皆さん。皆さんの積極的な参画を、未来社会は求めています。是非、未来課題への取り組みに参加し、豊かで持続可能な社会を構築して欲しいと願っています。

昨年12月、真鍋淑郎先生が、ノーベル物理学賞を受賞されました。大気中の二酸化炭素の増加が地球温暖化の原因であることを明らかにしたことでの受賞でありましたが、そのことが世界における環境対策を大きく進展させる結果となり、今日、国連が推進する「持続可能な開発目標」、SDGs (Sustainable Development Goals)の活動へとつながりました。その真鍋先生が、若者へ贈る言葉として、「カッコいい仕事(研究)を求めるのではなく、自分が得意とするもの、好奇心を満たすものに挑戦すべきだ」と言っておられました。

自分は、何をしたいのか。自分にとって何が大切なのか。自らに問えば、その答えは既に皆さんの心の中にあると思います。早速、それに向かって踏み出してください。それが皆さん自身の個性であり、才能であります。人生は一度きりしかありません。悔いのない、そして自分に誇れる生き方を歩んで欲しいと思います。皆さんには無限の可能性があります。是非ワクワクするような、夢や目的を持ち、未来づくりに参画してください。時代が大きく変革を遂げるとき、成功の方程式はありません。未知の世界に挑戦する勇氣こそが重要であります。人のためになり、人に感謝される、遣り甲斐のある夢を持つよう心掛けてください。

最後になりますが、皆さんは、ここ崇城大学において素晴らしい友人を沢山得ることができたと思います。どうか生涯の友として友情を分かち合っていたきたいと願っています。そして、是非本学を訪ねて来てください。教職員一同また皆さんとお会いできる日をお待ちしております。

皆さんのご活躍とご多幸を祈念して告辞いたします。

令和四年三月二十日

崇城大学

学長 中山 峰男